

【議事録】(概要)

会議名	第5次芦屋町総合振興計画審議会第1部会 (第3回)			会場	芦屋町役場 44会議室	
日時	平成22年12月2日(木)			13:30～		
件名・議題	<p>1) 部会長あいさつ</p> <p>2) 第5次総合振興計画基本計画(原案)について ※第5次総合振興計画(前期基本計画)の事務局案について説明し、意見を求めた。</p> <p>1章 住民と行政がとむにつくるまち(仮)</p> <p>① 地域づくり</p> <p>(1) 住民との協働</p> <p>(2) 地域コミュニティの推進</p> <p>(3) ボランティア活動の支援</p> <p>2章 安心して暮らせるまち(仮)</p> <p>① 安全安心</p> <p>(1) 防災対策の充実</p> <p>(2) 消防の充実</p> <p>(3) 防犯対策</p> <p>(4) 交通安全対策</p> <p>3章 子どもが健やかに育つまち(仮)子育て支援</p> <p>① 子育て支援</p> <p>(1) 児童福祉の充実</p> <p>4章 みんなで支えあう幸せのまち(仮)</p> <p>① 社会福祉</p> <p>(1) 高齢者福祉の充実</p> <p>(2) 障がい者福祉の充実</p> <p>② 健康づくり</p> <p>(1) 健康づくり</p> <p>(2) 公民健康保険事業</p> <p>③ 医療</p> <p>(1) 地域医療の充実</p>					
委員の出欠	第1部会					
	第1部会長	藤 崎 清 彦	出			
	第1副部会長	石 橋 公 子	出			
		藤 崎 英 毅	出			
		仁田原 真 穂	出			
		本 松 太 一	出			
		安 部 知 彦	出			
		脇 田 賢 二	出			
		竹 内 裕 二	欠			
		益 田 美 恵 子	出			
	辻 本 一 夫	出				
合意・決定事項	合意・決定事項なし					

第5次芦屋町総合振興計画審議会第1部会（第3回）議事録

（事務局）

第5次総合振興計画（原案）

【第1章 住民と行政がともにつくるまち（仮）】についての説明

（委員）

- ・目標になっているボランティア団体登録数については、11月現在で27団体、個人が7人と聞いた。
- ・地域リーダーの育成とは具体的にどのようなことをするのか。

（事務局）

- ・新しい区長への研修や、区長会と連携して講師を招き、全区長を対象に研修を行う。

（委員）

- ・地域リーダーは区長を指すのか。

（事務局）

- ・今のところ区長ということで考えている。

（委員）

- ・もっと幅広く、さまざまな分野でのリーダーを指すのかと思ったが。

（事務局）

- ・主要施策「地域コミュニティの推進」でのリーダーは区長に絞っている。それ以外のリーダーについては主要施策「ボランティア活動の支援」において扱う。

（委員）

- ・自治区については、加入率が低い理由を考えた方がいい。加入していない人の意見を聞くと、区費の支払いや、役員をしなければならないこと、ボランティア活動をしなければならないことなどがネックとなり、加入しない方が得という意見がある。

（委員）

- ・まったくその通りであり、それをどうしていくかということ自治区活性化委員会で検討している。

（委員）

- ・岡垣町は自治区加入率が90%を越えている。家賃と一緒に区費をとっているところもある。

(委員)

- ・芦屋町はどういうコミュニティをめざしているのか。コミュニティ像はどのようなものなのか。

(事務局)

- ・基本計画の中でコミュニティ像までは明らかにしていないが、基本構想では、コミュニケーションをとって暮らしやすい地域と記載している。

(委員)

- ・「地域コミュニティ」という言葉は難しい。どのようなことをするのかわかる方がよいのではないか。

(委員)

- ・区長だけではなく、組員も交えた研修も年1回くらいやってほしい。

(事務局)

- ・主要施策「地域コミュニティの推進」については再度検討する。

(委員)

- ・住民同士のふれあいは高齢者にとってもうれしいと思う。高齢者のところへ弁当を持っていくときに声をかけてもらうとうれしいという話を聞く。

(委員)

- ・出前町長室は、今あまり動いてないが目標に設定しなくてもいいか。

(委員)

- ・出前町長室では、質問制限があるのでは。

(事務局)

- ・マスタープランの項目に基づいたテーマで実施しており、基本的に質問制限はないが、陳情、要望の場ではない。

(委員)

- ・社協に事務所を置いているボランティア団体もあるが、ボランティア活動センターとのドッキングをどのようにしていくのか。

(事務局)

- ・それについては町としてまだ課題を持っているところである。もっと社協と協議しなければならない。

(委員)

- ・ボランティア活動センターができる前にリボンの会を立ち上げてしまったので、融合は確かに課題だと思う。

(委員)

- ・社協と生涯学習分野で組織するボランティアはそれぞれ意味合いが違う。その辺の整理は必要かと思う。

(委員)

- ・ボランティア活動の支援はどう進めていくのか。

(事務局)

- ・主要施策「ボランティア活動の支援」では、ボランティア活動センターに登録しているボランティアへの支援が主となる。

(事務局)

第5次総合振興計画(原案)

【第2章 安心して暮らせるまち(仮)】についての説明

(委員)

- ・目標の「地域防災組織の確立」には、女性防火防災クラブは入るのか。

(事務局)

- ・自治区での防災組織としているが、どこかで女性防火防災クラブについては触れたほうがいいかと思う。

(委員)

- ・災害時の要支援者への対応はどうするのか。防災時のボランティアセンターの立ち上げは考えていないか。

(事務局)

- ・要支援者への対応については、主要施策「防災対策の充実」の2つ目の項目に含んでいる。ボランティアセンターについては具体的な話は出ていないので、計画には書けないが

担当に伝えておく。

(委員)

- ・悪徳商法については、事後対応が多いので、防止に関する意識啓発など入口対策についても取り組むべきではないか。

(事務局)

- ・消費者行政については、入口も出口も取り組むということである。地域づくり課で研修などにも参加している。

(委員)

- ・三重県の伊賀市では、住民で悪徳商法バスターズを組織している。コミュニティと関連して考えてもいいかもしれない。

(委員)

- ・「地域防災組織の確立」の目標が5組織となっているが、これは区単位ということか。

(事務局)

- ・自治区単位。この目標値については、担当課に検討してもらおう。

(事務局)

第5次総合振興計画(原案)

【第3章 子どもが健やかに育つまち(仮) 子育て支援】についての説明

(委員)

- ・留守家庭子ども会については、定員の問題もあり、上の子は預けられないなど親の悩みがあり、解消が必要かと思う。

(事務局)

- ・留守家庭子ども会については4年生までの利用しかできない。意見は担当に伝える。

(委員)

- ・乳幼児医療の対象はいくつまでか。

(事務局)

- ・県では小学生に上がるまでとなっているが、芦屋町は小学3年生までであり、県内でも上位である。

(委員)

- ・その効果はどうか。子育て世代が増えたなどの効果はみられるか。

(事務局)

- ・それで人口が増えたという確証はない。

(委員)

- ・乳幼児医療の対象を引き上げるのか。

(事務局)

- ・これについては、検討とさせていただきたい。

(事務局)

第5次総合振興計画(原案)

【第4章 みんなで支えあう幸せのまち(仮)】についての説明

(委員)

- ・障害の害は、法律や計画名は漢字でいいのか。

(事務局)

- ・町では「がい」となっているが、固有名詞は漢字としている。

(委員)

- ・基本方向に、「地域福祉計画の策定に努めます」となっているが、他は「進めます」で、こ
こだけ「努めます」になっている。

(事務局)

- ・担当課では平成23年に検討して、平成24年に策定予定となっており、断言できない部分
がある。

(委員)

- ・老人憩の家の建て替えは、5年でできるか。

(事務局)

- ・過疎地域の指定が延長されているので、この補助事業が平成27年まで使えることになっ
ている。

(委員)

- ・地域福祉計画が一番基礎になるので、できるだけ早く取り組んでほしい。

(事務局)

- ・内部で再度検討する。

(委員)

- ・老人憩の家の建て替えについては、高齢者のみの施設でなく、若い人も集えるようなところにしてほしいとの声も多い。

(事務局)

- ・今は構想段階なので、そういうのも含めて今後検討していく。

(委員)

- ・3か所ある施設を1か所にまとめるのか。

(事務局)

- ・まだ決まっていない。

(委員)

- ・計画に記載していいか。

(事務局)

- ・建て替えの方針はあるが、3か所を1か所というのは明記できない部分があると思うので訂正させていただきたい。

(委員)

- ・巡回バスの運行については、路線延長などの計画があるのか。

(事務局)

- ・継続の位置付けで書いているが、地域交通連携計画において利便性向上等検討される。

(委員)

- ・町内の方が有料で使えるようになったらいいと思う。

(委員)

- ・特定健診受診率については28%くらいになっていると聞いた。

(委員)

- ・個人病院では特定健診をやってくれと言わないとやってくれないし、病院にかかっている
とって、本人が受診しないことが多い。そこをどうすすめていくか。

(事務局)

- ・今、担当課の方で保健師を雇って全戸訪問している。

(委員)

- ・家にいる人をいかに外に出すか。うつや高齢者のひきこもり、閉じこもりなどへの対策は
重要である。

(委員)

- ・孤独死の問題もあるので、地域福祉計画でいかに取り扱っていくかが大切。

(事務局)

- ・特効薬はないが、いろいろと地道に取り組んでいくしかないと思う。

(委員)

- ・健診だけではなく、体を動かすものは実施していないのか。

(事務局)

- ・健康教室は実施しているが、今は健診が主になりがちではある。

(委員)

- ・ここに入るかわからないが、総合型地域スポーツクラブは利用者も結構多いので、それを
活用した健康づくりもある。

(委員)

- ・そこまで出て行ける人は元気な人なので、地域でやった方がよいのではないか。

(委員)

- ・運動についてもなんらかのかたちで表現できたらいいかと思う。

(事務局)

- ・検討する。

(委員)

- ・診療科目の問題や近隣に大型病院ができたこともあり、中央病院の現状は厳しいものがある。建て替え時に医療機関としての体制も整えるのか。

(委員)

- ・老朽化している空調の問題もある。僻地の病院は医者の確保も大変である。

(委員)

- ・近隣の病院と連携をとっている。町単独ではなかなか難しい。